

1. 件名：「大間原子力発電所の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（116）」

2. 日時：令和4年1月6日（木）10時35分～12時00分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門

岩田安全管理調査官、三井上席安全審査官、佐藤主任安全審査官、中村主任安全審査官、永井主任安全審査官、大井安全審査専門職、松末技術参与、

電源開発株式会社 原子力技術部 原子力技術部 部長 他17名※

※テレビ会議システムによる出席

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

「大間原子力発電所の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（第113回、令和3年11月11日）」にて提出済み

・大間原子力発電所 震源を特定せず策定する地震動について

（参考）第113回事業者とのヒアリング概要・資料

[https://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/yuushikisya/tekigousei/power\\_plants/ohama/meeting/index.html](https://www.nsr.go.jp/disclosure/committee/yuushikisya/tekigousei/power_plants/ohama/meeting/index.html)

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	はい、お待たせいたしましたそうでしたらですね、ちょっとミツイ様御けど始めますかね。今からヒアリングを開始したいと思いますのでよろしくお願いいいたします。本日進学特定せず策定する地震動ということでまず資料の説明からお願いいいたします。
0:00:16	はい、電源開発原子力技術部の高岡でございます。本日はイワタさんから御紹介ありました。特定せず別。
0:00:25	特に岩手宮城内陸地震に関わる説明になります。特定せずについては昨年11月11日に標準応答スペクトル留萌の御説明に引き続きのヒアリングになります。
0:00:38	資料の確認ですけれども、本日御用意した資料は右上西へ
0:00:44	160 とついたものを1冊でございます。
0:00:48	それでは資料内容について半島の主管技師から大体40分程度かかるかと思っておりますけれども、御説明いたします。
0:00:59	はい、電源開発アマンでございますよろしくお願いいいたします。ページ72ページをご覧ください。
0:01:06	こちら目次ですけれども、これの4章ですね、地域性を考慮する地震動の評価こちら本日説明していきます。説明の中身ですけれども、地震のせなくみ上げ四つに分かれます地震の選定であった鳥取県成分の話岩手宮城の話だったの敷地の話も入ってきます。色紙に関しましては、周辺の審査とかされた方が多い。
0:01:26	オオイですので、ぜひに関する者はかなり省略した形で説明させていただきたいというふうに考えておりますではちょっと中身に入りますが、
0:01:35	と73ページですけれども、こちらの
0:01:38	今回説明の中身の位置付けでありまして地域性を考慮する地震動の評価となっておりますので74ページを見てください。こちら側の地域性を考慮する地震動の趣旨といいたまいますか本日説明する中身の
0:01:51	おまとめとなっておりますのでちょっとこちら説明したいと思います。まず大方針、地震動の選定にかかりますけれども、国内で観測されたマグニチュード6.5以上の内陸地殻内地震を抽出して事前に活断層の存在が指摘されていなかった地域において発生し、地表付近に一部の痕跡が確認された地震というのは分類いたします。
0:02:10	そのうちに地質地質構造の審査ガイドにのっとる調査例震源断層の位置や規模が予見だけできないものについて、それを選別いたします。選別された地震につきましては地域的な要件、或いは観測記録の要件を満たすものを地域性を考慮する地震動として選定いたします。

0:02:26	で選定された地震につきましてはこの式震源周辺と発電所の敷地周辺におけるうちす構造変動地形の類似性等によりまして、検討対象地震として考慮するか否かを判断いたします。
0:02:38	というのは審査ガイドでは地域性を考慮する地震動としましては 2000 年の鳥取県西武と 2008 年の岩手宮城というのが例題として挙げられていますので、選定結果に係る異なり地震につきましては個別に検討いたします。
0:02:51	その次がその定検西武のを検討の
0:02:54	惜しんでございますが、当該自身は当社の選定でも地域性効率性地震動に該当いたしました。これ西南日本内で発生した横ずれ型の大地震であることが知られておりますので、お願いするという所日本の地震発生期ごとの異なるというのが、あらかじめわかっておりますですねまず対極的に比較しまして、
0:03:12	日本全体でどのような違い全体規模で見たときの地域性を比較しています。次に実際地震が起きた周辺に着目しまして、町性状詳細に検討しましても地点の敷地周辺との類似性を評価するという手順で評価いたします。
0:03:27	次の岩手宮城でございますが、こちらの
0:03:31	地震発生以前にもですね、活断層の存在がお互いうちリスクを取ってやるとか変動地形が示されておりましたので、自分の精査しますと伏在する活断層の位置とか規模ついてというのは事前のデータで評価可能であるということが示されております。したがって、審査ガイドにのっとり調査を実施していますすれば、
0:03:49	震源として考慮する活断層っていうものが特定できたというふうに判断いたしましたので、ちょっと地域性を考慮する活断層地震動には該当しないというふうに判断しております。その当該地震の検討としましては期首震源周辺におきまして普段する活断層の位置や規模の推定というのを、
0:04:05	地震発生までのデータ、時 8000 前にられる程度で評価可能であるということ三つの視点で提示していきます。
0:04:13	一つ目がまず前提となる調査ということで、まっ一般的な活断層調査によって膨らむ活断層の位置というのが一つ量のものでそういったものがないかというのをまず確認します。そのあと STEP1 ということで、それから詳細調査になってきますが、1 億やすい。
0:04:28	ポテンシャルがあるかということ、あとその地震の露頭ですね断層露頭の見出しにくいようなものがあるかということを見まして、
0:04:35	まずその地域性と評価いたします。その後この審査ガイドにのっとり地盤変動の調査ということで、断層露頭がないにしても、広域的な地殻変動等地盤変

0:04:46	変動地形学的調査のうちの特に広域的な変形ですね、先週着目した調査或いはコード地学的な調査によって、地盤変動の線となるくらい活断層の位置や規模を推定が可能であるかというのを検討いたします。
0:04:59	なおスマートフォン、その辺りこの下北半島成分について同じような視点で、岩手宮城と同等な伏在断層が想定されないということをやった、同じように、
0:05:09	同じような視点で準じた調査を結果によって提示していくというような流れとなっております。
0:05:15	はいや形状の 76 ページ来ていただきまして、こちら側で地震動選定フローとなります。
0:05:21	左のほうにG u i d eから抜き出した文言書いてありますが、地域性を検討考慮する地震動とありますが、二つ目の四角の頭には書いてますが、事前に活断層の存在が指摘されなかった地域において発生し、地表付近に一部の痕跡が確認された地震となっております。
0:05:37	です。その下の四角行きますと、上記の条件を満たした上でさらに地震動が観測された地震であって、その二つの所二つありますけども、活断層の密度が少ない地域、或いは上部には何が火山がある地域もろうというような条件で、
0:05:52	選定するというふうになっております。それあのフローにしたのが右のほうの図となります。
0:05:58	まず最初一覧目が地域の抽出なんですけども、2004年以前のものにつきましては加藤ほかの論文から選定いたしました。それ以降につきましては、右のほうなんですけど、F ネットで2004年以降の関係で6.5以上の地震というのは抽出しまして、
0:06:13	でしたのか聞きまして、事前に文献があったか、事業に露頭があってもいいまでも自然に文献があるんであれば右側から回って下のほうに行きまして敷地ごとに
0:06:23	震源を特定する地震動で評価すると。
0:06:25	それがなくて、出たら地表に痕跡がなければこの左のほうに行きまして、全国共通に考慮すべき地震動のほうに検討に入っていくとでそれぞれの条件を満たしたものが、事前に活断層のそれが指摘されずに、一部残ん制約された地震となります。この後にガイドに基づいた調査で位置や規模が把握できないもの。
0:06:44	であればこのままで地域性を考慮する地震動の検討に入りますし、泊できるのであれば、前震源として考慮する活断層による地震ということで仕事に震

	源を特定して策定する地震動に入っていくというような流れで考えております。
0:06:59	で、この結果なんですけど 77 ページの方とかでありまして、こちらの中で当局書いておりますが、2000 年の鳥取県整備地震が抽出されております。78 ページ、お願いします。2004 年以降のおめwの 6.5 以上の地震のリストがありますが、
0:07:16	こちらの深さ 20 k m 以浅で修正したものがこのやつとなりますんでなんかの深さといいますのは、規制庁さんのほうの
0:07:24	震源を特定せずの検討チームの方が 20 k m 以浅で設置してましたのでそれに合わせて 20 k m 以浅で抽出しております。
0:07:32	79 ページが評価結果でありまして、
0:07:35	カタカナセット理研成分一番で残りを並べています。この茶のリストのみ真ん中右の文献断活断層の分権というところの位置、規模の痕跡とありますので、この位置規模バツっていうのが事前になり、痕跡 0 っていうのがあるということで、左バツマルのセットっていうのが
0:07:52	まで中立性もんなんですけど、何かした鳥取県西武新潟県中越であると岩手にヤギというのが該当いたします。このうち
0:08:00	鳥取県整備につきましては予見性のある文献がないということで頭条件にいたしますので地域性を考慮する地震動として選定いたします。二つ目の 2 新潟県中越地震につきましては、全国共通の方ですでに考慮されている地震ですので、そちらのほうで対応されているということで、
0:08:16	判断しております。岩手宮城につきましては、調査で予見性があるということですので、それぞれ震源を特定して策定する地震動になるというふうに評価するというふうにしております。
0:08:28	では次鳥取県西武の評価に入りますと 81 ページをお願いします。
0:08:36	検討の仕方ですが先ほど説明しました通りですけれども (1) の部分で今まで断層の諸元を確認整理いたします。(2) のほうでまず大局的な地質性状比較しまして (3) で今度曲線的確認確認読んで最終的に比較結果を示すという話ですね、まず
0:08:53	諸元のほうにありますけど 82 ページですね、震源規模と余震域ですこれは基本的に気象庁が地震本部なり幼稚園に出している資料から抜き出しております。
0:09:02	基本キャプションにまとめておりますが地震の規模 Mw7.3 で東西圧縮の日付断層と示されています。あと客船一番下にこの余震域について書いておりますけども、大体 35 強程度に広がっているということで南部がまとまりが良くて報告が拡散するというようなことが言われております。

0:09:21	次 83 ページをに關しますからの地震による地盤変と左がGPSで右側の責任測量でありまして、却者の上、1 ポツ目がGPSの評価でありまして、事業の効果に変わりますが、余震域を断層面と考えて引く東左横ずれの地殻変動が明瞭であったというます。
0:09:40	あと右の水準測量の方なんですけども、ちょっと絵を見ていただくと 34 と 35. 原因が逆転していません。これが後程横ずれ断層辺りところでありまして、
0:09:50	しく領域から引っ張りに移るといのは明瞭ということでキャプションの一番下に書いてますが左横ずれと整合的な上下変動があるというふうに判断されます。84 ページです。これは地表痕跡がありまして、
0:10:03	敵対図のほう、
0:10:05	通りなんですが出ていく幅 1 km ぐらいの間の単価で長さ 6 km ぐらいの範囲で露頭が確認されたとなってます。あと左の傷の右下のちょっと明確化させた上のほうの断層見ていただきますと左ずれで 29 から 35 で短縮で 35 から 40 というのが、
0:10:21	確認されている一番大きな頻度というふうになってはいますが、85 ページにまとめておりまして、
0:10:28	上の四角が今言ったことをまとめていますR I 上の四角の下に右矢印でちょっと真ん中で書いておりますが、この規模の地震ですと基本的にオーバーしてますので地表の地表断層がですね、震源断層が出るというております。ここで松田式で換算しますと、期待される断層の立坑 30.2 km で 1 回での変位量管理、
0:10:48	4 となります。この大きさを実際に確認された震源地震断層ないと確認しますと、左のほう長さですね、いけますと、またらしき 39 に対して余震域が大体同じぐらいと、例えば地表痕跡がSSSかかったという意味が変位量を見ますと、こんで確認
0:11:06	期待されるのが 2.4 名に関しては痕跡や短縮も横ずれもGPSも渡していないというのが特徴かというふうに考えられます。
0:11:17	次にこの大局的な 10 性状ということで 86 ページです。
0:11:21	ついで図でございますが、縦牽制部というのは基本的には安定領域、液体に西南日本なんて期待なりまして、一般的には東西圧縮の横ずれ断層ですで敷地がありますのは、
0:11:34	また不日本なりまして逆断層が発達するまで地震活動の高い地域というふうになっております。
0:11:40	87 ページですが、おっきな地質構造でありまして、基本的にとって成分が火山深成岩の分布域でとってと敷地のほうは新第三紀の海底火山噴出物のプ

	リントかですね、の分布域であるというのが示されています。88 ページが、
0:11:56	ひずみ集中体の話でありまして、地質学的なひずみ集中体というのはいんですけれども即し学的な集中できますと、比較的ひずみの既存として認識されておりますが、左上の図ですね、それから像の中にちっちゃくしがあるんですけれども、マグニチュード6以上。
0:12:12	20km以浅の地震というのが幾つか起きているというのがありますのは右のほうに示しておりますが、1994年まではNN値例の特定観測地域というふうに指定されている場所でありました。
0:12:24	89 ページで逆にこの下北のほうなんですけど、こちらの地質学的なひずみ集中体にも測地学的な集中体にも合致していないというのを示しています。
0:12:34	90 ページお願いしますかあの文献の活断層なんですけど、もともとただ活断層の少ない地域あわせて牽制をですね。ですが、その震源域には一応いくつか示されているかただしその震源側の審査は果たして一般分布されれば示されていなかったというものでございます。
0:12:50	91 ページ。
0:12:52	北側の敷地のほうですが、こちらの
0:12:55	大局的に見ると非常に地震の位置となっておりますが、資源の敷地周辺には核に活断層が示されていないということでございます。92 ページが変動地形であります、右の図がわかりやすいと思いますが、震源の走向に沿う形でリニアメントがかなり多く、
0:13:12	分布されておりますのでかつこれあのよく見ますと左横ずれを示唆する稟議監督になっておりなり表という露頭調査をしますと断層活動が非常にオダカってというのがわかるというふうになっております。
0:13:24	立法 93 ページのほう敷地ですけれども、変動地形、
0:13:28	断層地形の可能性のある地形というのは幾つかあるんですけど、層厚に凍結するものでありますCMまとまったこともしていないというのがございます。94 ページが週次、県の地層でありまして、
0:13:40	右の図がわかりやすいんですけど本心のある場所になっている土地エコー第三期の確保でそれのほうはそこに珪長質な火山が負っていると、南のほうは100先の確保がありましてそこにはもう地震と震源がヨシノ来ていないというのがあります。
0:13:57	95 ページは凡例でありましてで 96 ページは、
0:14:01	敷地へと敷地のことで特にそういった申請側の部分っていうのはありませんで、基本的には冠水堆積岩の分布域となっております。
0:14:09	まとめたのが 97 ページでありまして、

0:14:15	ですね、類似性等についてちょっとこの話ですのでお客さんの方見ていただきますけれども、鳥取県政府の審議は大局的には安定した活断層の密度の小さい構造区に位置しております。それから震源周辺は測地的ひずみが比較的大きくM6規模の地震が観測されさらに活断層が示されていますのでよろしい方向に断層により形成
0:14:35	やっぱり駄目とも判読されているということで、直接的には活動性を示す正常化によりますでまた何か変位地形が少なく、断層が認識がたい地域とされております。一方下北制度は大局的には逆断層は収めて活動度が高い構造区に位置しますが、下北半島整備に限りますとひずみ集中体には該当せず、
0:14:54	魅力規模の地震もない活断層は敷地から遠くリニアメントも卓越する方向性の少ない少数のものが何が判読されるということで対極的にも局所的にも、
0:15:03	活動性を積極的な活動を示唆するものがないということで、また断層変異地形も安く断層認識させ地域であるということで、大局的にも、局所的にも震源周辺等下北半島線引があり得る性がないということで、震災3年、鳥取県清野地震は地域性を考慮する地震動の検討対象地震にはしないと。
0:15:23	いう方針と判断をいたしております。次に、この岩手宮城でありまして、
0:15:29	99ページお願いします。
0:15:33	右上のキャプションに示しておりますが柳田ほか2029.8学雑誌の多分君の方でやってみ上げ内陸地震の
0:15:41	につきましては変動地形学的調査コード違う的調査によって震源断層の位置と規模の設定がかなというふうになっておりますので震源特定する地震に相当するんですが、ここでは
0:15:52	それを左のほうに示します検討フローに従いまして予見性がありますということを示していきたいと思っております。このプロなんですけども。
0:16:00	基本的にも自信があるという前提で、その震源断層長さにつけられるかどうかという視点でつくったフローでありまして後になっちゃうのJRの方でできる。
0:16:10	新しい指針ですね、それともある程度横目でにらみながらつくったフローとなっております。手順としましてはまず前提になる調査ということが一般的な調査でどこまでわかるかと中でも地震発生前の文献でどこまでわかるかというのやはり示しております。
0:16:26	詳細な調査に入りましてから地域特性ということで、地震発生ポテンシャルがあるかと弾性見出しにくくさせる要因があるかということで、
0:16:36	下の分岐がございますが、もしあの断層が見出しにくい場所で岩手宮城発生したのであれば、確かにそれは外へと左のほうへ行きまして地域性を考慮する地震動にしなければならないと。



0:16:47	しかし実際当て逃げなかつ見出しにくい場所でしたっけ、下の青いほうに入りまして、
0:16:53	通常の単調査でわかりませんが改定に示される特に地盤変動の調査ですね、それをした場合に見つけられるかどうかという視点で変動地形学的調査やあちこち学的調査を実施してその結果活断層の位置規模が特定できないのであればやはり地域性を考慮しまして特定できるのであれば、
0:17:11	賃金が確定してのほうに行くでしょうと。こういったフローとなっております。
0:17:15	100 ページ資料こう整理してこのフロー単にこう縦に並べたという形で説明していきたいというふうに考えています。
0:17:23	いや、まずえて 101 ページですね。
0:17:27	まず緒元の整理ということで、こちらのちょっと簡単にしたいと思います。102 ページ、お願いします。
0:17:33	岩手宮城震源がまだ何かという認識なんですけどもこれ地質学会のホームページ或いは等で地震計のホームページに載っているモデル図であります真ん中見ていただきます。
0:17:44	今回地震の震源な産地境界断層という名前がつけられておりまして、
0:17:49	そのの北方には $\beta$ 断層というのがあります。これ北上西縁制併置制限断層たいという風な大きな断層の南始まりまして、
0:17:58	目からこの段差で南で少し最後に分岐しまして入れた方がかなり東端のほうで本体につきましてはこの産地境界断層のほぼ北に延長になった箇所がその北上精緻に減らせ二段階になっています。産地今日出た段差事象にちゃんと露頭が出ています。産地強化にすることができない。
0:18:16	ですね東のほう真ん中辺りが持ち転がし今度御足労構造線というのがありまして、タニグチに地質境界を示せ古い構造線と考えて決まったものですが、今回自身で露頭が遅れたのはこちらの力が強いほうの断層ということで、
0:18:32	計算値境界断層付近ですけども地表にやろうと思っていなかったというものが出たのは持ち転がし補足庫構造線のほうでやったというようなことが今回の震源断層の実態というふうになっているものであります。
0:18:47	103 ページ震源規模の話でありまして、
0:18:52	M j 7. 二相当合わせにいったなっております 104 ページが余震域でありまして、
0:18:59	アマノによりますけど 45 k g から歩んできたというふうに言われております 105 ページのほうが、
0:19:05	実際生じた隆起でありまして、上三つ並んでますが日色つきの

0:19:12	真ん中の図でいきますと、大体3南北35km入ってます。右のほうのちょっと資料黒っぽいリフトま30km程度の隆起があるというふうに言われています。106ページなんですが、
0:19:25	今回その重機ばかりがあつて地表に痕跡がなかったということで、その根拠として、その理由として入れとし、
0:19:32	震源断層の特に下端におつきな整理があつたのではないかというふうなことを示している論文がございます。106. 計器室で次107ページで、
0:19:43	地表痕跡ですね、先ほど申しましたけれども築炉橋補足6号線沿いにかなり見られております。断続的ですが20km程度分布域を入れるということになっています。
0:19:56	108ページで実際露頭での変位量なんですが、ほとんどが50cm以下でありまして、
0:20:02	右図の左下のほうにオレンジで囲っておりますが、田沢ダム7.4メートルってちょっと特殊に大きいのがございまして、これにつきましての地すべりではないかという解釈がありますのでちょっと検討においてはこの数字を使わないというふうに考えております。ですので地表露頭の変位量が50cm程度であったというふうに考えております。
0:20:21	109ページが変動した断層変異地形ですね、断層の地表延長部に発生するものをせん断変形を直接示すような地形につきましては、野村さんから文程程度の範囲で確認されるという形で断続的であったと断層地形を、これがホテル断層であるというふうに進展は困難であつたであろうというふうに書かれております。
0:20:42	110ページがまとめでありまして、
0:20:44	象限とまとめたのが上の四角ですね、また真ん中に右矢印で正しけれ撮りぐらいになるかといいますと、具体的に16kmで1回の変位量が2.1っていうのが賃金規模から想定される地表断層から成っております。それから比較したのが一番下の四角でございますが、左側の断層規模でいきますと、
0:21:03	26km期待される長さに対しまして隆起はそれより大きい余震域がさらにさらに大きい間いただして地表痕跡であるとか断層変位地形はそういう小さかったというものです。あと変位量民法でいきますと、
0:21:16	最大変位量3年、2.1メートルが期待される中で、
0:21:20	えっと変位のほうでいきますと3メートルの隆起がありましたので十分大きかったんだから地表痕跡の変位鉛直変位量だと小さかったということで痕跡等で見ると小さいんだけど、実際全体的な動き理由等マツスエ下式の規

	模がやや超えるぐらいのものが出ているというのが今回の地震というものでございました。
0:21:39	次に、この一般的な活断層調査ということで 112 ページからいきます。まず場所なんですよ家団体東日本火山対日しますというものですね 113 ページが、その中でもホットフィンが 20 するので、
0:21:54	基本的な変形の対策が卓越するんですが、同時に非弾性変形が生じた設置位置というふうに認識される場所であります 114 ページが後続も先ほどの敷地と同じであります当座貸越逆断層型で、地震活動が高い地域となっております約 15 ページは古い下のほうの基盤側のほうの構造なんで古い
0:22:14	シースが下のほうにありますっていうだけですね 116 ページが、
0:22:18	長大断層との関係で先ほど申しましたというふうに北上低地西縁断層たいですが、これらの正断層メインの延長が主にこの信用足りませんが、山地境界断層になっているということで、延長部にあるというものです。
0:22:32	117 ページが 8 する断層ですが、持ち込めば C 補足欄にかかわらず、ほかにも幾つか地質断層が分布する場所というふうになっております。
0:22:42	218 ページが断層変異地形なんですが、これはあまりないということではないんですけども。
0:22:47	基本的には地形から断層するそうですが難しい箇所であったというのがあります。
0:22:53	119 ページがこの地盤変動でありまして、
0:22:56	震源域の東側の斜面の下線で見ますと、河成の段丘の時刻量の変化たいっていうのがあったというのがわかっております。特に右の一番下にですね。相手というのが 2005 年の論文でありまして地震発生前ですね、科学的に、
0:23:12	審議北のほうのですね、時差があつてですね、そこで今回の産地境界断層付近に伏在断層があるんじゃないかというのが、ここん時に示されているというのがわかります。
0:23:24	120 ページなんですが、これ時進行であります、持ち込んだし、
0:23:29	来そこら構造線でトレンチであるとかボーリングを実施したと仮定におきまして、その中で、トレンチ調査で、
0:23:36	繰り返し活動する断層というのがわかりますし、ボーリングと 36 メーターになったということで、直接震源断層ではないんですが付随して動いた断層が活断層だったというのは致傷させればわかったんだろうというものであります 121 ページが重力構造ということで、左の
0:23:54	16 図をプロ下なんですけども南北走向に
0:23:58	齢 16m が並んでいるなというふうな読み取れるというものです。122 ページが弾性破探査でありまして、

0:24:06	これはちょっと左の図が右が北で左が南になっております。ちょうど②番っていうのは、胆沢が得ですね、先ほどの変動地形で伏在断層オカってなるのがあったかなんですが、上の図が右側の②沢田市というところでありますので、そのうちの
0:24:22	伊佐大臣左側ですね、加藤 T a l l 2006 ウチヤマ 2006 ですので 2008 年以前、地震発生以前なんですけどその事件で、
0:24:30	名前ついてたわけじゃないんですが、断層があるということな話は断面で示されていたということで、
0:24:36	少なくともその産地境界断層というのは南西側で、
0:24:41	事前に認識がされていた認識といいますかね。判読がされていたと思うということがわかります。約 23 ページがまとめておまして、
0:24:49	表のほうはちょっと今まで説明した内容なんで、お客さんの方見ていただきますが、
0:24:55	全国一律に評価する文献からは、震源断層が東西に短縮変形する地域に合わせて外径が活断層の延長位置に 1 延長に位置することに加えて、多くの地震断層、地質断層が地表に迎えているということで、N S 走向で逆断層型の活断層の伏在が疑われ地域と判断されています。
0:25:13	私現象を評価対象とした文献では、胆沢川の低地へ山地と低地境界におきまして河成段丘の計画より変化体が認識されていました 2005 年でさらに反射法地震探査によって伏在断層もとられていたところが 2006 年ですってということで、もし両方ちゃんと比べていけば、震源となる活断層の分布というのがされてる地域だったのがわかった。
0:25:34	いうふうに判断されますのでここも活断層を示唆する、具体的な値性状がある場所というふうに判断しております。
0:25:41	次に地域特性の確認ステップ 1 に入りますと 125 ページひずみ集中体ですね、こちらはやはり左始め左側の小さい学的ひずみ集中型右のほうの測地学きいて効いて沈み集中でどちらにも該当する場所と
0:25:58	なっております 126 ページ、長大断層の延長部ということで、これは先ほど説明がかなり説明の通り北上低地西縁断層の延長に位置しております。
0:26:08	127 ページから産地平地協会なんですけど、
0:26:12	とりあえず見ていただきました通り地形だけで見ますと、なかなかそこに断層が引けない場所にあっておりますが、ほかの右のほうを見ていただきますと、隆起量ですね河成段丘の分布標高 T P P の
0:26:27	D t の分布ですね、いいますと明瞭にそこに境界というのがわかるというのを示しています 126 ページが、この重力構造でありますけど、

0:26:36	真ん中の重量基盤Ⅱです。全体ではないんですが本震付近については少し落差構造があって、これがはさ板を示しているかもしれないというのが産総研のほうの資料に書かれておりました 129 ページであります。
0:26:50	と微小地震なんですけど、これがちょうど測地学的ひずみ集中体等集めに 8 のほうの低速度とも関わっております、その 2 列
0:26:59	そういう部分溶融を示すような領域がありましてそこに微小地震が発生していると、その 2 列が来る。
0:27:07	こちら場所辺りに今回の信用がございましたってかつ右の図みてる白い点ありますが、これが定修か示しております、深部からの地殻流体の上昇も規定されるということで、断層があるんであれば非常に動きやすい場所にあったというのがわかります。
0:27:22	130 ページであります。
0:27:25	ほかの余震分布を
0:27:28	その規格の速度構造と比較しますと、すべてが出て基本的な低速度対応させて高速度域のみに発生していただくというのが示されています。
0:27:38	131 ページは、同じようなものが似たような地域で起きているということで、9096 年にマグニチュード 5.9 の地震があったんですが、このときもやはり同じように計測導体を避けてこそぐったりのみで発生する地震が起きているということでこの地域ではこういったものが起きやすいというのを示しています。
0:27:55	132 ページのほうに派遣されたわけですが、
0:27:59	キャプションの見ていただきまして、
0:28:02	震源周辺は時品が高速度領域において累積的な短縮変形及び隆起が認められており、弾性変形によるエネルギーがひずみエネルギーの蓄積が期待されます。私溶断相対の延長になって詳しくスタンスも分布に加えて近く流体の供給というのにも期待されるため、
0:28:18	活断層による地震発生ポテンシャルの高い地域であるというふうに判断されます。
0:28:23	はい。
0:28:24	次に今度見だしにくくされる要員ということで 134 ページ、お願いします。
0:28:30	まず地表覆う堆積物ですね、まず第三期のカルデラ火山噴出物であります。これは基本的に全域を覆っております。
0:28:39	特に火砕流堆積物のルーズな堆積層ですので、またカルデラ噴火ということであると大量に厚く堆積するというので、断層のせん断変位が吸収されて見出しにくくなるだろうというふうに考えられます。

0:28:52	135 ページはその凡例で 136 ページはこの第四期の火山噴出物まして、こ こもやはり
0:28:59	部分的に差が負っているということで、これも合わせますと、かなり全域が 火山性のもので終わり適地というふうになっております。130 のがその関連 と、
0:29:09	138 ページから地すべりでありまして、こちらが非常に地すべりの著しく発 達する地域でありまして、これが再活動しているものがかなりあったという ふうになっています。
0:29:20	特に地表変位量が観測されたのが最大 50 c m 程度ですので、地すべり当期 末すればすぐに簡単にそういったものが低くされるよりは吸収されてしまう というふうを考えられます。
0:29:31	139 ページですが、PRA の荒戸伊達南のほうなんですけども。
0:29:35	かつてのカルデラ堆積物をミツイを
0:29:39	滑り面として大規模に滑ってる例ということでこのような大規模な滑りも発 生しただろうというのが言われております。はい、249 ページのほうでまと めておりますが、
0:29:50	キャプションのほうですね、震源周辺はカルデラ火山の空隙が多いルーズな 火砕流堆積物に扱われ、また地表に滑り地形が切れる発達するなどを地表付 近はダンス可変九州或いは被覆されやすい環境にあり、地表の断層変異地形 が見出しにくい地震であるというふうに判断されます。
0:30:07	はい。
0:30:08	141 ページと見づらいんですがこれ (5) 示しますよということでこれを評 価いたします。結果が 142K 値でありまして、
0:30:16	まず、PDS ねじ発生ポテンシャルに関しましては、地震が拘束的にやって っ累積的な観察研究及び琉球そしてます私よう断層面調査によって地質断層 も変わります。また近くに置いた教訓がありました。
0:30:28	見だしにされるか織り込まカルデラ火山の火砕流のはやっぱりまた実績に も位置付けするというので、
0:30:35	評価は青のところです活断層分布域に一般的に期待される値性状等、適用す る項目が多く、また、断層変位が地表付近で吸収被覆また分散されるように 適用する項目も多いということで、断層露頭の見出しにくい地震が発生した 設置時期っていうことで、
0:30:51	評価されます。
0:30:54	次に、そういった地域でちゃんと断層のみつけられるかということで、審査 ガイドに基づいて、

0:31:00	そのような見出しにくい地域であるんですが発見できるかということを示していきますと 144 ページをお願いします。
0:31:07	こちらの
0:31:09	母材はですね、震源域の東側の斜面を流下するかわりた P T S 河成段丘を使った流況の変化です。
0:31:18	これでいきますと、地震前後の標高の変化上下変化の急変部ですね、その 1 と D t 河成段丘の T T 値を使った蓄積されたその隆起の急変部ですね、それが一致しているとか、言い方が位置するということを示しているものであります。
0:31:34	逆に言いますと今回起きた地震利子リリースする範囲というのがモチーフ的に確認できる隆起と合致しているというのを示すものであります。
0:31:44	145 ページが、そういった場所がどこまで広がるかというのが調査した例でありまして、
0:31:50	万な右側の値ですね、真ん中の図ですね、この中で W P て書いてあるんですが、これが
0:31:58	変形たいということで、D t がちょっと大きくなると早くなっていると思っておりますので早くなるということをそこのところの境界がえと南北に点々で書いてあるラインでありましてこれらの H 隆起量急変部というものです。この急変部の長さが大体 30 k m ということで、
0:32:15	30 k m 程度の長さで隆起の地質学的に確認される隆起の急変部というのがあったというのがわかると大体、
0:32:24	地震発生時の地表の隆起が起きた大きさと大体合致しているというのがあります。
0:32:31	160、136 ページであります、こちらの、いわゆる断層変異地形ですね、断層の延長に表れてあろうせん断によって直接ある地形はこちらでいきますと、
0:32:42	やっぱ 3 から 49 程度しかない、なかったと、事前の調査ということであまりこちらのほうで見つけづらかったというのがあります。
0:32:50	147 ページですが、
0:32:53	断層露頭ですね。
0:32:57	ターネットちょっと医者右の図がいいですかね、右の図の赤丸が今回の地震で発生しているたんすけどどうなんですか一応 3 列あったと言われてます。説明はこの露頭もし今これからまた、この露頭だけで断層認識しようとしても、なかなか規模そういうことは困難であるというふうに判断されます。
0:33:17	ということでまとめが 148 ページであります。

0:33:21	お客さんでいきますが、隆起量分布の調査によりますと河成段丘河成段丘面の比高分布によって後期痕跡高に活用した変形たいっていうのが把握されて答弁となる隆起の急変部によって伏在する活断層の存在や、
0:33:36	表地方の延長位置っていうのが推定されます。また変形体が地震時の隆起域と同程度に広がるということから、変形形態の規模によって伏在する活断層の規模の推定が可能な限り判断されますんで断層変異地形の調査させて直接出そう示すようにですね、調査によると震源付近に、
0:33:53	として活動した後これ補足ほど線の断層に沿う断層変異地形っていうのは出現しています。ですから質疑範囲は利益に比べて非常に狭いと。しかしながらもそこにトレンチ調査を実施することによって、過去の地震活動ができるとは明らかになっております。
0:34:07	はい。
0:34:08	次に構造地質学的調査ということで基礎構造から断層が予想されるかという話です。150 ページをお願いします
0:34:16	／貧困右上の図がいいですかね、これはやっぱりその震源域の断面図特に東側に入るんですが、
0:34:24	いう
0:34:27	先ほどの変形たい点がW tということで幅広く聞かれております。その左のほうに市のほうにF Zと書いてますが、ここが
0:34:35	と褶曲体として地質的に認められる
0:34:38	地層の変化体ですね、いうセットというのがございます。
0:34:42	あとそれと、F ZとこのW T I 見ると全体が東日本を事業する撓曲構造になっておりまして、撓曲というのが断層視察という形の構造の下を見ますと、ちゃんと弾性か探査で産地境界断層であるとか、もちろん実効性がちゃんと見つかっているということで、この
0:35:00	当局は当局をなす一部分のF Zの褶曲体これをオダカ震源断層によって生成していると考えれば、このF Z長さというのがやはり 30 k m程度あるということで、地質構造的にも、
0:35:14	ある程度活断層予想できるというのが示されてございます。
0:35:19	151 ページですが、まず褶曲の下の構造ですね、こちらの先ほど繰り返しに近いんですけども、男性かかりますと、ちゃんとお産近い断層が見つかりますよというのを示しております。
0:35:33	152 ページであります、
0:35:36	却さんですね、河成段丘面の比高によって把握された変形対 2000 部に褶曲体が認められますんでかつ支障原単位が東傾斜のブロードになったということになっているということで、西傾斜の逆断層のプレートが真下されます反



	射法地震探査では直下に震源断住んでる産地強化ガイダンスがやや古いする炭素がちゃんと確認されます。
0:35:54	褶曲タイヤブロードな褶曲構造は産地強化ガイダンスが付随する断層に形成されたと判断されて会社法地震探査によって1また褶曲な作業で規模の推定が可能であるというふうに判断されます。
0:36:08	ということで、評価でイワタヤギの評価でございますが、
0:36:12	変動地形学的調査や公表値学的調査をやりまして、青いところでございますが、
0:36:18	変動地形調査工事学的調査を実施すれば後期更新世以降に活動する変形対すぐ一部を形成する褶曲タイヤブロードな鉄骨の把握されまして、それらの線となる伏在する活断層が赤にされたものとなっております変形対のポイントになる急変部は膨れする数なんですけど、地表延長位置を示唆してますし、
0:36:37	本件タイヤ褶曲というのは長さというのが伏在する活断層の長さで判断されますので、この辺形態や褶曲というのが39というのは地震の規模から推定されます震源断層長さ20kmよりも十分なので、十分保守的な評価が可能であったというふうに判断されます。
0:36:52	ということから、2008年の岩手宮城地震は立件敷地内及び敷地の地形地質調査に係るガイドにのっとり調査を実施していれば地震発生内に震源として考慮する活断層の位置や規模をSED可能な地震だったという考えられますので、敷地ごとに震源を特定して策定する地震動の評価対象に、
0:37:12	分類されたであろうというふうに判断されます。
0:37:15	はい。
0:37:15	155建設関連するガイドの記載ですので省略いたします。
0:37:20	で、156ページは今度同じ調査を敷地に実施したらどうかという話でありまして、157ページに、
0:37:27	ちょっと趣旨を書いております。4歳1震源周辺の評価。
0:37:32	そして岩手宮城につきましては、Guideの取り調査を実施すれば地震発生毎に震源として考慮する活断層の位置や規模が推定阿蘇て可能なものであって、特定策定する地震動の評価体制に分類されたので、震源周辺及び敷地における地質構造や、
0:37:49	変動地形の類似性等の検討ってのは不要と比較ですねは判断されますが、しかしながら、震源周辺投資きちんと敷地周辺が同じところ日本の関戸山地に位置しておりま隆起傾向にあるということ、また東日本火山全体の各論点について、

0:38:06	当然短縮や先進性以降のカルデラ火山対応等の大局的な類似性が認められる ということを考慮しまして、年間の敷地周辺においてはやってみると同じよ うな
0:38:17	明日くらい断層が想定されないということを毎回示していきますということ であります。
0:38:22	158 ページがフローでありまして、
0:38:25	このフロー基本流れは一緒なんですけど、前提が違うの岩手深山地震があつた のでその炭素が見つからという視点で書いていますので今回はねて深部まで 起きてないので小さい起こすような断層があるのかなのかという視点のフ ローとなっております。ですので、真ん中にポテンシャルが言い出しにくい というところで分岐がありますが、
0:38:43	もし断層露頭満たしやすい地域であるならば、当然、
0:38:47	スクリーン無線自身が中身使ってるだろうが一般的な調査が可能であるとい うふうにそれますし、最終的に地震の位置規模が見つければ特定しまして見 つからなければ、それも伏在監査がないという話になるというふうにちょっ と風呂が一部変わっております。
0:39:02	やっぱりちょっと座だってきますので、
0:39:04	160 ページは、各団体、同じ東北東日本火山たいですな 161 ページホット 品がに位置しております約 62 ページも同じ構造区ですという話。
0:39:17	約 63 文献によっては別の構造区に示すものもありますよというのは入れて おります 264 らの不陸の地質構造なので、一応違うは違うんですか古い構 造なので、あまり評価にはかからないと思うんです。
0:39:30	165 ページ活断層分布で、こちらの震源周辺にはくありませんっていう形 で 166 ページ。
0:39:38	込まの地質断層がありませんというのを示しています。267 ページ変動地形 のほうですが、
0:39:45	様相はいっぱいあるんですけども、実際断層地形の可能性のある地形とい うのは少なくて待つということを示しております。168 ページが地盤変動です ね、これ
0:39:54	利益の方で何か説明していますが、全体としては 700 メーター以上の隆起 はしてるんですけども、まさにをもたらすような断層というのは見つかりま せんっていう話です。
0:40:03	169 ページ活断層労働です。これそもそもないので、示しようがないとい うことで、それと書いております 170 ページが重力構造ですが、
0:40:13	だからあまり明瞭に理念津波られないというのを示していますと 171 ペ ージの／成果探査会計相当やってますけども、隆起の線になるようなものはあ

	りません。私も見つかる段差すでに評価済みですというものですね 172 のほうで比較しつつ説明ですけども。
0:40:34	172 のまず全国一律に評価する関係と上のほうなんです、
0:40:38	まず 1 が大局的チェスコ図は、
0:40:41	岩手宮城と同じです。分布が疑われる参画ってあります。それが文献活断層はもうありませんのでバツになりまして小さい断層もないのでパスということが違ってきています。
0:40:52	で、下の方この変動地形が 4 変動しか調査でいきますと、
0:40:56	閉ざさ変位地形、
0:40:58	直接断層示し危惧され岩手において同様敷地もございません。ただ地盤変動の方がやってみよう佐賀で見ると急変部ありましたが、敷地のほうにはそういったものはありません。
0:41:08	で地表地質調査の活断層等も行って右側が付随して動いたものがちゃんとありますが敷地のほうにはそういったものもないということです。
0:41:17	地球物理のほうもブーゲー異常である岩手には多少ある南北走向の構造があるんですが敷地にございませんとということで男性が探査も岩手には直接断層に使っているんですが、時値のほうには設計弾性が探査でも何も断層見つかっていないということで、
0:41:32	そもそも一般的な調査の段階で特に活断層というものが無いっていうのがあります。
0:41:39	次にポテンシャルでありまして 174 ページですね、敷地のほう日地政学的にも測地学的なひずみ集中体には該当していないというのは示しています。175 ページは、
0:41:51	活断層の延長ということで、長大なものほか、油滴ありますので、その延長にはございませんで 176 ページ山地音痴協会で、こちらも特に境界をなすような場所にはなっていないと、右のほうに
0:42:05	なぜ適用で比較しておりますが、そこが特に急変するような場所はないというのを示しています。
0:42:10	177 ページは従量基盤構造波のほうで基盤と示していますが、特にやはり急変部というのはないというのを示しています。178 ページが、微小地震分布であります、
0:42:22	特に地下の
0:42:25	P d か偏差分布ですね、これと関連するような微小地震の発生も来ていないというのを示してございます。
0:42:32	まとめが 179 ページでありまして下北半島成分の地盤変動というのは非弾性利益変形というのが主体でありまして復元する活断層を示唆するような兆

	候がありませんということで人発生ポテンシャルはとても認めがたいかなというふうに考えております。はい。
0:42:48	次に富田市に隠される要因ということで 181 ページですね、まだ先がカルデラ火山というのは敷地から遠いところがございますが、多分ほか議題というのは示しています。
0:42:59	182 ページ、第 4 紀火山ということで、これはやっぱり敷地から遠い場所に分布していますという形です。
0:43:05	183 ページが地すべり地形でありまして、同じ縮尺で示してありますが明らかに密度が少ないというのがわかるかと思っておりますということで 184 ページ見出しにくくされる要員のまとめはH&西武一部にカルデラとありますが、
0:43:20	それぞれの火砕流堆積物が比較しないで地すべり地形も少ないということで震源断層のせん断や九州また低ささ被覆されることなく地表露頭や断層変異地形という低地表に現れて残土する関係のものと判断されます。
0:43:36	でちょっとまとめのページが 186 でありまして、
0:43:40	ポテンシャルに関して言うと、地震発生ポテンシャルは認められず、また、断層露頭見出しにくくされるようにもないということで、断層露頭の見出しにくい地震が発生しやすい地域が岩手三明の場所には該当しないというふうに評価されます。
0:43:55	次に今度変動地形学的調査ではこれ三山周辺で説明していますが、188 ページが隆起量分布を急変部はありませんっていう話です。
0:44:05	三鷹 19 ページ、上のほうも海辺棚 100 メーターぐらい変形第四期あるんですが、それを線となっている断層が見つかりませんということをしてCS110 ページ、球面なんですけども、特に段丘年、ぜひ図の中で緑系が全部段丘なんですけども、Point国、
0:44:22	他ダムとかですね、崖とか、そういったものはありませんということです。
0:44:26	191 ページで断層変異地形これは繰り返しですけども、断層地形の可能性のある地形と判読していて、それすべてに活動性がない或いは段差がないというのを確認済みであるというものです。
0:44:38	で、まとめたのが 192.1 と。
0:44:41	変動地形ですね、下北半島整備では河成段丘の肥厚に加えて改正段丘の高度分布ヤマダの堆積構造につきまして使いまして広範囲で地盤変動というのを精度よく把握していますので広域的な隆起が認められないんですけども、後期更新世に活動した 30 キロに当たる。
0:44:58	局所的な県計器或いは隆起量 900 下期岩手見つかっているんですけども存在しないということを確認しています。ですので、評価対象となるような伏在活断層というのは想定されないというのが、

0:45:10	また変動地形学的調査の結論です。次に地質構造ですけども、194 ページです ね、終局に関しては、
0:45:20	以前周辺で説明していますが、そうですね基盤の方には細かい伸びるんですけども、それが先進性更新統で入っていくとだんだんそれが見えなくなります っていうのは、以前説明した通りでございます 195 ページが、
0:45:33	撓曲なんですけど、特に撓曲というものが見られないという中で示しております 196 ページまとめですが、下北半島整備が負担付近に褶曲体が認められますが しかしから過去の短縮変形構造と判断されてきて全体は第四期の広域と調和し とって撓曲をなしていません。また改造分担保では、
0:45:51	C 曲線の新聞には成因となる段差認めていませんので評価対象フランスやっ ば想定される。
0:45:58	ということ。
0:45:59	でまとめが 198 ページとなります。
0:46:03	審査ガイドにのっとりまして変動地形や地質構造調査をしてましても、変動 地形学調査によれば後期更新世以降に活動した局所的な変形やり切る急変が 分布しないので、伏在する活断層を想定されません。また高度地震学的調査 と褶曲やそのセントラル深部断層が分布しないので、
0:46:20	伏在する活断層やはり想定されないということで下北半島成分は一般的な活 断層調査によって活断層のは可能と判断され、さらに 2008 年の岩手宮城内 陸地震の伏在する震源断層の位置及び規模を推定可能とする調査と同程度以 上の調査を実施しています。その結果、
0:46:37	下北半島成分には広域的な隆起は認められるが、後期更新世に活動した 30 キロにわたる局所的な変形機或いは隆起量急変部から認められず、少なくと も岩手宮城の震源断層に相当するような伏在する断層が想定されません。
0:46:53	というのが、敷地のほうでまとめております。で、全体のまとめが 200 ペ ージでありまして、
0:47:00	事前に活断層の存在が指摘されなかった地域において発生して地表付近に一 部の痕跡が確認された地震として、鳥取県制定で右が抽出分離されます。都 税形成につきましては、敷地周辺及び敷地周辺の Q 値スコア震源周辺がより 敷地平面切る。
0:47:17	蓄光材変動地形の類似性が認められないので、地域性を考慮する地震動の検 討対象地震には選定いたしません。2008 年ヤギにつきましては、審査ガイ ドにのっとり調査を実施していれば地震発生以前に震源として考慮する活断 層の位置規模を推定可能な地震であって、
0:47:33	敷地ごとに震源を特定して策定する地震動の評価体制に区分された目で地域 性を考慮する地震動の検討対象地震としては選定いたしません。

0:47:41	なお敷地周辺では一般的な活断層調査によって活断層も図ると判断され、さらに 8 年の岩手宮城と
0:47:49	に復帰自身の伏在する震源断層の位置及び規模を推定可能とした調査と同等以上の調査を実施しておりますのでその結果を下北半島西武には広域的な隆起は認められますが、後期更新世以降に活動した 39 にわたり何蓄積な変形機や隆起の急変部ってというのは認められません。
0:48:06	で、少なくとも岩手宮城に沿った震源断層に相当するような伏在する活断層は想定されないと。
0:48:12	というのが全体のまとめでございます。はい。以上でございます。
0:48:20	説明は以上でよろしいですか。
0:48:23	はい。以上です。
0:48:27	はい。そしたら審査側からのコメントがあればお願い確認事項があればお願いいたします。
0:48:35	はい。
0:48:36	すみません、佐藤ですけども。
0:48:40	まずね。
0:48:42	74 ページをお願いしたいんですが、
0:48:45	2000 年鳥取県西武実施と地域性の比較をして、大間サイトとは類似性がないので、地域性を考慮する地震動の検討対象の地震を選定しませんっていうのは
0:49:02	いいとか悪いかは別としてですね、そのストーリーはそのストーリーはわかりました。
0:49:07	一方ですね 2008 年の岩手宮城内陸地震についての取り扱いなんですけども。
0:49:14	200 ページちょっと最後、結論なんですけどね。
0:49:18	これはそもそも、
0:49:20	震源として、特定っていった地震なので、特定せずとしてはそもそも扱えませんが。
0:49:30	もう門前払いしますってそういうストーリーしか私には聞こえなかったんですけど、その理解でいいですか。
0:49:40	はい、電源開発様でございます。基本的には
0:49:44	認識でよろしいんでありまして、肌のただフローで、
0:49:50	再度ちょっと確認させていただこうかと思うんですが、
0:49:54	行うべき。
0:49:58	入れて言ったのが 76 ページですね。

0:50:03	それと端折ってしまって申し訳なかったんですけど、このフローのほうで、
0:50:07	地震の中核はいいですね地震の分類先月の中で、真ん中カーの
0:50:15	真ん中にこう、ちょうど真ん中の欄に事前に活断層の存在が指摘されなかった地域において発生し、地表付近に一部の痕跡が確認された地震ということで、
0:50:24	地震春が発生した時点において指摘がなかった場所だけしかし痕跡があったものというのがまずありましてここに岩手土産も鳥取県性も該当します。その下のほうに点でガイドによる調査で把握できないっていうこちらのほうでの
0:50:38	悪できるということでノーのほうに行くのが岩手宮城ということで、設置ごとに震源を特定した中に入っていきますと、この時点で選別されたという。
0:50:47	ことでございます。
0:50:50	うん。サトウですけども、ちょっとこの76ページの符号ねそもそもやっぱりこれガイドの趣旨をちゃんととらえていただいてないんじゃないかなっていう気はするんです。
0:51:01	この議論はまだしばらく審査会合できる頑張るしばらく先だけど、今日は記憶しておいたって聞きしたっていうことにとどめますけれども、
0:51:14	ちょっとやっぱりここは、いやそもそもこれは震源を特定できた地震なので、排除しますっていう理屈がちょっとやっぱりね。
0:51:23	規則基準それからガイドをの考え方を踏まえても、もうそこはちょっとすれ違ってるような気がするんですよ。
0:51:31	100歩譲ってですよ。岩手宮城の地域政党御社の大間サイトのそのトップ地域特性を比較した地域性を比較してね、やはりこれ役みヤギとは全然地域性が違うので、これはもう採用しませんっていうなら、
0:51:48	こういうってわかるんですけども、そうじゃなくてこれはもう特定ちゃんと競争すれば特定してのほうに分類できるからそこはもう
0:51:59	我々としてはもう門前払いしますっていうそういうふうな皆さんの考え方にしか聞こえないんだけど。
0:52:07	そういう理解でいいですか。まずは、
0:52:12	一般的に風間です。
0:52:15	ですね、審査ガイドの中にはいろいろ書いてありますけども最新の技術を使って最新の知見でありますよっていうのが書いてあるんですよ。ですので、もし
0:52:26	地震発生した時点でも調査止まっているっていう前提であるならば、まさにサトウ採用おっしゃる通り、
0:52:32	だからもう、

0:52:34	わざわざガイドでですね、事業者にどんな地震があるんだっていうのは、今回の改定されて、そのときに事業者の方で該当する地震を選定する予定になったかと思うんですね、多分その趣旨を私が理解したのは、審査ガイドでちゃんと最新の知見最新の調査技術を使ったときに、果たしてと断層が選定されるなんての見直しよっていう人が私は理解。
0:52:54	ましたので、そういった目で見るとやっぱり岩手宮城っていうのが今の技術っていうか、その聞いて値ってのも、
0:53:00	イワタみ上げ起きたときっていうのはその早々期ぐらいの話ですので、そう先ではないかな、あまりその全国的にだれてない時期でしたので、今現在だとかかなり効いてるんで、隆起見るっていうのはもう普通のことになってますので、あくまで今述べてみれば、
0:53:14	古い昔の地震ですよ。昔の地震、
0:53:17	いわゆるから今の技術で見直せば当然把握できるのも出てくるだろうということで岩手宮古もそれに該当しましたということで、私たちは特に地震動の改定の趣旨を
0:53:27	組んだつもりでこのようなストーリーくしておりますサトウですね、多分ね、岩手宮城は、鳥取県西武とこれガイドに例と書いてるんだけど、この二つはちゃんと地域直接地域性を比較していただく中で、まずマストだと思う。
0:53:44	多分そのほかに、そのほかにアマノさんがおっしゃるように、その他に捨てるものがあれば拾ってもらえればいいし得ないっていうならないっていう、そういう評価をしてもらえばいいと思ってるんだけど、この二つは多分もう評価をしていただくのはもう
0:54:02	地域、御社のサイトのCとA逼迫して地域性をちゃんと評価していただく企画していただくというのは多分ねマストだと私は理解しているんですよ。
0:54:14	従って、これをもう調査をちゃんとあれば、震源を特定してII分類聞けるものなどで、これはもうオミットしますということは多分ちょっと、
0:54:26	コーラないしは移動の宍粟まかれる基準規則の技術思想にですね。そってないような気がするんだけどね。
0:54:36	というのがちょっと今日の聞いたところの我々の感触なんです。
0:54:43	一方ですねサイトの特性も一応評価をしているんですね、これ資料後半。
0:54:50	そこは同等ISOの位置付けでこれ被災等の周辺再投資の特性を評価してるんですか。
0:54:58	もしこれ読んでみやぎはもうとすればわかったものなんですと、事前にわかった断層なんですというバンでオミットするんであれば、このサイト周辺の特性っていうのを調べる必要があった。



0:55:13	あるんですか。これちょっとどっちつかず第2の資料になってるんだけどね。
0:55:21	ちょっとその辺だけ確認させてください。
0:55:25	はい、電源開発さんでございます。えっとですね、157ページに一応
0:55:32	なぜ、敷地のと出したかという趣旨といたしましうか言い訳といたしましうかちょっと書いてございまして、
0:55:37	特に2ポツ目ですね、1発目が岩手宮城はもう除外しましうって話です。
0:55:48	岩手宮城側も特定できるから想定シナリオはいいんですけども、じゃあ岩手日報おんなじような地震が出版会社が負担になるのかっていう視点です。
0:55:58	岩手宮城は地表に痕跡がないんですけども、変動地形から評価できる地震震源断層がありますよという事例です。同じようなものが下期足りないのかってのがやっぱ同じ視点で、
0:56:09	見る必要があるだろうということでここで改めて示しているという位置付けですね、隆起債権だけたくさん率なんですね、本当の真面目な始めてないですね、地政学的に正しい見方で下北半島成分の隆起を見た場合に、岩手宮城のような震源断層が想定されたらどうかという視点で、
0:56:27	改めてか機能しているというものになっています。
0:56:33	うん。嫌なので、ちょっとお話最初の話に戻るんですけども、特定せず、同内容としては調査して調査でもうすべてがすべてわかるしよっ調査して評価することできない。
0:56:49	いけない。
0:56:50	評価し得ることはできないと思う。そう。そういうところから入っているわけですよ。もので特定してと特定せず、層厚的な関係をかながみてですね、基準地震動を決めましようというそういう思想に立っているわけですよ。なのでちょっとこのロジックをあげさせちょっとさすがにねなんか我々も
0:57:11	外違和感があってもはっきり申し上げて、
0:57:15	などで特定せずの議論になって審査になったらですね、今日の資料別に書いていただく必要はないんですけども、まずはこれで1回説明してもらって見て審査会合で議論したほうがいいのかなと思うんですけどね。
0:57:32	ちょっとさすがに今日御説明ではねこれはなかなか外鉄鋼抵抗あります。
0:57:41	c少なくともその地域性を比較してやって2008年岩手宮左右しませんって言うたらまだまだしもですよ。
0:57:51	さすがにこれはもう調査すればもうわかった地震なんですって言われるとね、発生側にこれはちょっと

0:57:58	名研究の佐々木さんの論文辺ぐらいありますけど、強調で、それによってバッテリーとか大きいと思うんですが、発想だみここはやっぱり抵抗があります。
0:58:11	基本的にそれによって立ってるんですか。
0:58:14	これは、
0:58:16	デミズ頭でございます。
0:58:19	ですね、入れておけばですね。
0:58:23	えっ。
0:58:24	特定の岩手宮城が特定できるという根拠につきましてはもう電協研なり、いわゆる柳田さんの論文等させたということによっているのもその通りであります。
0:58:36	あと事前に確認できたっていうのは
0:58:39	何だっけ。
0:58:41	田力さんですね、田力さんの論文と四、五万で自然にちゃんと確認されてはそちらのほうに寄っているというところなんです。なのっ地域性の比較という話でいきますとその4.3. にですね周辺のことを示しているときに、
0:58:56	まとめページ
0:58:58	岩手宮城と比較するような形の実際清涼づくりとなっております、
0:59:04	この
0:59:06	地下麻痺
0:59:08	我々の趣旨とは変わってくるんですが地域性を比較したと、もし仮にしたとした場合であってもやはり震源域と周辺というな違うんですというのは
0:59:20	今もそういったこともありが麻痺同じように評価しているというものであります、そうですね。資料的には出た比較もちゃんとしていうところでもありますので、お願いといいますと、
0:59:31	広域的に見ると同じような地域でありますので、まず伊勢あるんですけども、局所的にあの場所ローカルで見えていくと違う場所になっているというのはこの34。
0:59:44	何だ敷地のほうの評価をしている中で、並行して説明できるというふうに資料構成となっているというふうに考えております。うん。サトウです。やっぱりねそこは入口論が非常に大事で、
0:59:58	そこはもう1回考えていただいても結構なんですけど、どっちにしる同じでしょっていう多分今のアマノさん。
1:00:07	出水だと思うんだけど、入口論はやっぱりそこまで大きく違って、比較して、

1:00:13	2008年やってみようリジェクトするのか。
1:00:17	いやそもそも震源断層としてこれ特定できたんですと言って問題も入るのですよねオカでちょっと入口論が違っているし、
1:00:25	さっきも話に戻りますけど、基準規則ガイドの考え方にちょっとやっぱりよらないところがあるので、
1:00:34	そこは少し考え直したほうがいいかもしれないですけどね。
1:00:38	私は基本的にこの資料で1回審査会をあげたほうがいいと思っておりますけど。
1:00:43	直さず
1:00:45	というのがちょっと今日の聞いたところの感想なんですけど、私から。
1:00:53	あと電源3法です。出資。
1:00:58	おそらくそのような趣旨が来れるんだろうなテーマで低位予想がついたところでござんですけどそれって始められて、それでこれ若干ちょっと私が疑問に思うのはそうするとこの先どんな調査技術が発生しようが、
1:01:10	結局地震が発生した当時の調査技術でしか評価できないということがN続くことになってしまうんですけども、それは
1:01:17	規制庁さんとしても別に問題ないと考える。
1:01:20	先ほど話がちょっとこれはちょっと本質からずれますけれども、多分ねさっき
1:01:26	評価フローステップ1ステップ2とか、これIRSかATENA等面談したときに、こういう表各号を作って今後反映していきますみたいな話があったと思うんですけども。
1:01:39	多分そのフローのことを言ってるんですか。違う。
1:01:47	一対一には対応しないかもしれませんがね。
1:01:50	トリガで実際一対一がちょっと体操しないと対応しないんですが、そもそも、
1:01:56	いや、アマノがつくり出したときはあんまり存じ上げそうだと知らなくて作ってまして、に当たりますをJRの形に無理やり押し込んでるっていうのは99ページのフローっていうのが実態でありますね。そうですか。
1:02:10	なので、
1:02:12	ですけど言わんとしている趣旨は同じでしたので、これに合うような形で並び替えていると。ただし一般趣旨は一緒なんですよ。
1:02:20	地質調査っていうのはどんどん技術発達している設計調査仕方も変わってきますので、それが反映されるのはおかしいんじゃないかっていう問題意識は

	一緒なんですね。うん。なので、やっぱり岩手宮城を例えば私がその地震が起きたと知らずに調査に行っても、おそらくちゃんと
1:02:37	ここには活断層があるなってなってきたと思うんですね。ですね変更も示していないということで資料をつくっております。ソースタムねこれ確実的な話としてはね多分そういう話もあり得るし、現にね、4紀学会である本文書をとっている論文などで、
1:02:54	そこは確実的にはそれ相応の知見があったとは思いますが、
1:03:00	ちょっと今回のやっぱり審査ではなかなかね 50 っていうのは多分、我々としては多分アクセプトしていないだろうというふうに思っております。
1:03:11	それから加えていますけれども、多分そういう新しい技術が当然ながら、姫下請けてくるわけなんだけれども、
1:03:21	そうやってないと多分 F S A R の世界に多分入ると思うんですねおそらく将来的には、
1:03:27	そうやって自主的な事業者みずから御活動の一環としてやっていく話になるんだろうというふうには私は理解している。
1:03:37	ちょっと余談ですけど。
1:03:39	低減化しタカオカでございますが、佐藤さん言われた御趣旨は理解で今のガイドは制定改定されているんで、回動によると、地域性で類似してるかどうかで審査していく。そういう御趣旨の発言。
1:03:57	かと思えます。それでちょっと資料上はですね、ちょっと何ページそもそも誤信アウトカムがぴったりとアマノとかないんで、例えば 158 ページなんですけど、ここは考え方なんですけど。
1:04:10	これ岩手宮城震源域の辺りの検討フローが右側にござい大きな流れがございまして、(2) は (3) 辺りにこのあたりの検討は震源域と下北半島西武と比較して、
1:04:25	行っていて、大局的な地質構造は、やはりからではあるとか、火山地域に近いところにあるとかそういうところで、なかなか排除はできないんですけども、断層露頭見出しにくくさせる要因とかですね、地震発生のポテンシャルがあるなしとか、
1:04:44	そういったどちらかっていうと、ローカルな、こう違いについて地域性の違い条件の違いっていうのは、検討してございますので、審査会合ということを言われましたけれども、少なくとも、
1:04:59	その辺りの条件の違い、下北半島と震源域岩手三村震源域の違いというのはもう少しクリアにして説明整理はできるかなあと。
1:05:09	内容は変わるわけじゃないんですけども、説明の仕方をこう

1:05:14	比較してもわかりやすくすることができるかなと考えております。ちょっと補足。
1:05:26	サトウつけどもちょっとまたそこをまずしますけど、
1:05:31	今日は一応説明を聞きましたというところにしていきたいと思います。私からは以上です。
1:05:40	すみません。
1:05:41	とにかくサカモトですけど、ちょっと規制庁さんのお考えを少し、もう少しこちら頭の整理が今ひとつの状況なんで少し教えていただきたいんですが、
1:05:53	審査ガイドこれ改定前の審査ガイドができたときに、もともとあの16地震の表があって、
1:06:00	で、Mw6.5。
1:06:02	コール経つが鳥取西武と岩手三明じゃそれが入ってた理由は、
1:06:08	今の資料の76ページですね。
1:06:14	そこの左側の四角の上から2番目の四角に書いてあるその事前に活断層の存在が指摘されていなかった地域で発生してって地表地震断層がその全員を表すには至ってなくて、
1:06:29	震源の規模が推定できないし、
1:06:32	こういう理屈でどっぷり生物等岩手宮城が上がっていたと思いますんでそれが今般改定されて地域性を考慮する地震動として、この左側理由②の絵なんや火山岩、堆積層が厚く分布する地域で発生した地震として、
1:06:49	40として2008年岩手三明地震というのが記載されているわけですけども、
1:06:57	今までのアマノとか、説明した通り、最新の技術最新の知見でいくと、この岩手宮城は規模を事前に推定できるっていうふうに
1:07:09	柳田論文が正とすればですけど。
1:07:13	そうなった場合には、規模が推定できるわけですから、
1:07:17	地域性を考慮する地震のそもその理由になってる地表地震断層としてその全容を表すまで至っていないというのが客勘つか企画できるわけですよね。
1:07:32	となると。
1:07:33	その地域性を考慮する特定せずの地震動の例としては、岩手宮城は適切ではないというふうに我々考えているわけですけども、それが、特定せずのまだ対象になるっていうあたりのお考えがちょっとまだこちらのほうで頭の整理ができないんですけど、少し
1:07:51	教えていただくと助かるんですが、

1:08:00	個別に検討したと。
1:08:04	はい。本当ね。
1:08:09	すみません。7ですけども、さっきもちょっと先ほどの候補のコメントと重なるかもしれないんですけども、私のほうから、まず、
1:08:19	事実確認をする前にガイドはあくまで探傷であって、我々が皆規則と規則解釈の適合性かどうか。
1:08:26	という観点で、
1:08:28	その関係で、規則解釈から言うと、重要なところを書いてあるところの文書が全く考慮されたいんですけども、震源近傍における観測記録をもとにということだね。
1:08:40	で、そういう意味合い岩手宮城鳥取県成果品近傍において非常に応じた観測記録あって、これを反映することができるかどうかという観点で選ばれて、
1:08:51	そういう意味では今、岩手宮城が御社は震源として特定できると言ってますけども、それを特定したところで観測記録の再任ができることが確認されています。
1:09:06	いえ、お答えください。
1:09:14	電源開発のヒラハラです。
1:09:16	審議を観測記録の分析につきましては、2020年の3月の面談でも一部検討状況についてご説明をしております通りですね。
1:09:27	震源特性に関しては観測記録と整合する震源モデルを構築して検討しております。また一関西観測点に関してもですね、これはとても大きな観測記録が得られた可搬すみませんまたイエス、ノーで答えてくださいと言ったってちゃんと再現できる詰めて確認できてるんですか、イエスカノーかでお答えください。
1:09:50	日イエスカノーかっていうよりも加速記録についての理解っていうのは進んできているというふうに考えております。いや、じゃろうということですね。ですんでというか、確実に再現できることができてないってことですね。
1:10:04	その精度よくという意味ではまだ途中っていう面もあるということは可能ですよ。議会として、
1:10:11	そうすると、なぜこの深くできない場合という逆に考えて貢献性法規が選ばれないのか、これはもうそこまで大きな記録が認められてないと。
1:10:23	いう中で方針を前回今また16地震の本震を入れてませんよね。
1:10:28	選ばれてるのは最大余震ですよ。16時以前の16地震、
1:10:35	あくまでこういうような観測記録を

1:10:38	というところで選ばれているものです。
1:10:43	ということで、開削に対してこれが今の説明が適合できるかということを考えてください。
1:10:51	引き続きで他の事実確認パッキンいただきたいんですけども。
1:10:55	先ほどあったかなというのページの話で、
1:10:58	なぜこれ 2004 年オダカ 2000 ですか。
1:11:01	2004 年を境する明確な根拠というのがあれば教えてください。
1:11:08	はい、臨界様です。2004 年に加藤他という論文のほうで、その該当するものですね、事前に活断層の存在が指摘されなかった地域に発生して一部痕跡高さってというのがこのまとめられておりましたので、それを使ったということでもあります。
1:11:26	2004 年より前に本当に全部拾われてるんですか。
1:11:31	今の解釈の観点からお答えください。
1:11:40	に直接
1:11:42	当社で確認はしていませんがもう論文だけで見えています。
1:11:49	はい。同じような観点から銀行 76 ページに関しては、これも全く震源近傍の観測記録の話が頭に全くできませんよね、鋼板においてようやく出てくる。
1:12:02	ちょっとこれはやはり規則解釈の趣旨と私もずれていると思います。
1:12:09	他に一泊に被膜がまず文献の中で聞いている文献の中で地震がない。
1:12:20	中で確実に震源断層という議論をしてる部分と本当にありますか。
1:12:31	稟議が多分ですね、すみません、質問の趣旨がわからないんですけど、その刑事の何を
1:12:37	景気でしょ。
1:12:39	今転移内陸地震に関していろいろおっぴなめられていますけども、この中で、
1:12:46	地震が発生する前の段階で確実に震源断層であるという議論ができると思うんですか。
1:12:57	直接震源断層と表現している論文ありません。
1:13:01	伏在する活断層が、
1:13:04	推計されるという程度の表現。
1:13:09	ということは科学的にはやはり岩手宮井の地域において地震があったから初めて議論ができるの分しかないですよ。それは事実として間違っていないと思いますが、ここの見解いかがですか。

1:13:25	岩手宮城でこれだけ集中的に調査がされたのは当然地震が発生してからですね当然原子力施設であれば、信号機を決まりが同等以上の調査されるものというふうに考えております。
1:13:41	うん。堂々めぐりになるかもしれないってこと同じこと言うと思いますが、地震が発生していない中で本当に同じような見解で出せるんですか。それ自身もっていいですか。
1:13:56	もう十分出せると思います。
1:14:02	そうですか。いや低く事例としての防災活動の部分、これ論文オダカですね、よくよく中身を聞いているっていうんですけども。
1:14:14	加藤とある 2006
1:14:17	加藤サトウめの 3 人で書かれてるの分ですけども。
1:14:21	この加藤というのは私とで、学生時代からよく
1:14:28	探しをしている上にこの論文の内容の部分が出る前からセミナーであると聞いております。
1:14:34	これに関しては、震源断層ということは全く議論せません。
1:14:40	あくまで水が増えたということしか言ってないので、地震で動いたとは何を言ってません。
1:14:48	これは右側インバージョンテクトニクスなしでちゃんと正断層で動いたものを逆に逆断層で動いた今の構造が説明できるかということを書いていたという
1:14:59	震源断悲しいというのは明確に言っておりません。
1:15:04	にもかかわらず、ここで根拠にするというのは、
1:15:06	間違っていると私は考えます。
1:15:10	あと、社内では、
1:15:17	電源開発のサカモトですけども、今のヤギさんからご指摘いただいたとちよっと私頭の中で成否
1:15:26	したんですけど。
1:15:27	震源断層が地表断層かということもありますけれども、我々事業者としては地表断層なり何なり痕跡が認められた場合にそれが十分な長さじゃなかった場合はこれに依存する考え方で震源断層想定すると。
1:15:43	というようなことをやるわけですけども、そういった考えでいくと、この柳田論文に基づくとすれば、30k m程度の長さの震源断層を
1:15:55	当然想定して地震動評価を行うということになると思います。今の知見ベースでいくと。そうした時にそうやって想定した震源断層を震源モデルで、
1:16:07	岩手宮城の震源近傍の観測記録が概ね説明できるのであれば、



1:16:14	特定せずの対象にはすいませんですがすいません、今回はねこれ事象の話をしてるんですよで起こった地震つまり想定してなかったけれども起こった地震について自分の地域と比較してそれを地震動として考慮するかしないかなので、
1:16:29	起こった後に一生懸命調査をしてそれから断層だとわかってる何の意味もないんですよ。
1:16:34	こっちの問題ではないんですよ。
1:16:37	地震動の話ですから、
1:16:39	そのような地震時サイトで考慮する必要があるのかなのかということで営業出してるわけですよ。だから岩手宮城県の当時わからなかったわけですよね。
1:16:47	そういう場所で起こったものが自分のところで起こるか起こらないかの比較をしてくださいとしか言ってないわけですよ。
1:16:53	だからさ、先ほど佐藤が言ったように比較は最低限必要ですね。
1:16:58	当然これね、例えば岩手宮城の近辺に原子力発電所があれば、敷地周辺の断層として一生懸命調べますよ、それはもしかしてアマノ断層としてわかったからといってですよ。それはそのサイトにとっては敷地震源特定して策定する地震動になるかもしれませんけど。
1:17:14	お宅は近くじゃないわけですから、震源を特定して
1:17:20	策定する地震動がどうかということの何かこの 76 ページのフローになってますけども、これは全くガイドにはそんなことは何も書いてないと思いますけれども、左側と右側のこれ風呂違いますよね。
1:17:37	そういうことも考えた上でしっかり説明をして欲しいし、今回その選定されたものについてもね。
1:17:45	Guide でいくと、この①になる該当するか丸いに該当するか全くわからないので、そこをしっかりと説明をした上で何を検討用地震として選定をして、
1:17:56	サイトとの比較をして地震動に取り入れる、取り入れないかという判断をして欲しいんですけど、それがガイドに書いてある。
1:18:03	我々はそう思ってるんだよ。
1:18:08	これは審査会合での議論になるともこれ以上言いませんけれども、後から一生懸命調べてわかるから、これは震源特定せずかそうじゃないかということは誰も言ってない。
1:18:19	その時点でそんなものは見つかってなかったんだけど起こったんだから自分のサイトと比較しているのかいらないのか議論して欲しいんですよね。
1:18:27	だから、いろんな地震をさらに

1:18:31	見た上で、
1:18:32	例示として書いてあるのはそのときにこういう地震が起こったんだからそれはまあ当然見るんでしょうねというのは、もうガイドの改定するときにも残したということは当然そういう先ほど申し上げた趣旨にのっよりは残るんだらうねということで残した。
1:18:47	あそこをね、
1:18:49	フラップに&Cですよ、ガイド
1:18:52	基準も、
1:18:57	これはヒアリングの中で言いますけどね、あまり私も無駄な議論をしたくないんですよ。
1:19:03	しっかり手順に従って説明をして欲しいんですよ。
1:19:07	これ後はもう審査会合での議論だと思いますんで、少し皆さんももう一度ガイドをよく読んで、
1:19:14	記事も読んで、
1:19:16	何を説明すべきかというのももう1回整理をして再度ヒアリング申し込みください。以上です。
1:19:26	設計
1:19:28	電源開発のタカオカでございます。イワタ3ナガイさん佐藤さんから言われたご趣旨言われたことは理解したつもりですので、もう一度解釈等街道よく読んで、今日本日、ご発言されたことも、
1:19:43	整理して改めてまたヒアリング申し込むこととしたいと思いますので、内容自体は大きく変えられないと思いますが、少し説明性の向上で、特に地域性のところとかです。ね工夫できるところは工夫するなど、そういったことはちょっと考えたいと思います。
1:20:00	私からは以上ですはいわかりましたいづれにしろあまりね、すでに出してしまっていてヒアリング今日やって公表するわけなので、ドラスティックに変えるということは望ましくないと思ってますので、このベースでやっていただきたいんですけどね、あとはどういう説明をするのかということとか、もしこの時点で考えてることがあれば審査会合の場で説明していただいても構いませんので、
1:20:20	あそこは先ほど私申し上げたようにもう1回頭を整理して何を説明すべきなのかというのをお考えいただければ。
1:20:27	以上です。
1:20:29	はい、タカオカでございます今のイワタさんの御趣旨理解いたしました。何をする説明すべきかというところで、規則、それから、開業を踏まえてちょっと記載の適正化すべきところは、

1:20:43	させていただきまドラスティックにわかりませんが、記載の適正化程度でちょっと考えたいと思います。
1:20:51	はい。よろしくお願いたします日次今回 79 ページとか、この前のページの表ですけど、いろいろと 6. 予備品というのは変わりますねと言われてますけども、これは電力大としてそれぞれの
1:21:06	。
1:21:08	はい。
1:21:12	地震動の影響のあるようなところは一生懸命やるけれどもそうじゃないところは見えない。そういうことであれば、やっぱり話は違うと思うんですよね。
1:21:24	7 あと電解様です。79 ページの資料等については、電力代ということではなくて当社独自で調べてまとめた表であります。
1:21:34	はい、まとめたのはわかりましたけれども調査に入ってますか。
1:21:42	れんがためです。
1:21:44	特にここの断層について調査をしていません。
1:21:49	はい、事実としてわかりました。私からは以上です。すいません、何回も。
1:21:56	別途ほかになれば以上にしたいと思いますがよろしいですか。
1:22:03	はい、電源開発タカオカでございますので、ヒアリングについては以上で
1:22:08	大丈夫です。本日確認した事項についてはまた後程お送りさせていただきます。はい、よろしくお願いたします。
1:22:17	じゃあ以上にしたいと思います。お疲れ様でしたありがとうございますお疲れ様です。どうもありがとうございました。